

# 横割の

## お茶ばあさん

平成七年四月五日号

むおばあさんがやつ  
てきて、「おこもり  
して、お祈りした  
い」と禅師にお願  
いしました。

おばあさんは、  
本堂にこもって御

本尊にお茶をささ  
げ、お香をたき、

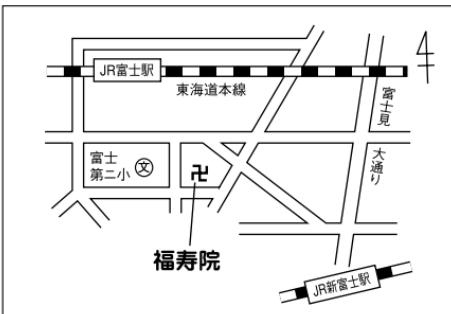
飲み食いもせず一  
心に祈り続けまし  
た。すると、どうでしよう。間もなく禅師の

ぜんそくも、おばあさんのせきも、すっかり  
治つてしましました。

ところが、おばあさんはその晩、どことも  
なく消えてしまいました。禅師は、おばあさ  
んは観音菩薩の化身に違いないと思い、それ  
からの供養を怠りませんでした。

今から約四百年もの昔、成安寺の逸道禪師  
といふ坊さんは、ぜんそくが持病で隠居し、  
福寿院に住んでいました。ある日、せきに悩

むおばあさんは、  
JR富士駅 東海道本線  
富士第二小学校  
JR新富士駅  
大通り  
福寿院



割の百姓、長右衛門に一人の姉がいました。この人がある日、重い病気にかかりました。そして意識がなくなつた後、福寿院の住職のまくら元にあらわれ、「私は、逸道禪師のせん

そくを治したおばあさんの化身です。死んだ後は人々のせきを治します。どうか、私の好きなお茶を供えてください」と告げて、息を引き取りました。

丁寧な葬式を済ますと、どこからか「我は、世の人々のせきの病を救おうぞ」という声が聞こえきました。その後、せきに悩む人が墓にお茶を供えてお祈りすると、せきがすっかり治るようになったということです。

### 横井はまさん（下横割）

以前は清水や三島からお参りに来る人がいたほど、せきが治ると言わっています。毎年八月七日は、お祭りなんですが、その日は、近所の人だけでなく、わざわざ柏原（元吉原）からお参りに来る人たちもいるんですよ。皆さんには、ぜんそくに効くと言われているお札を渡しています。



▶ お茶ばあさんのお墓。「咳癒院智空禪尼」  
と刻んであります